

新しい社会へ

大正時代は15年という短い期間だったが、「大正デモクラシー」という、自由や民主化を求める運動が起こり、今までとちがった政治の考えかたや文化が広まった。国際社会も勢力争いが激しくなった時代だった。



明治天皇がなくなって、1912年に年号が大正になりました。

<立ち上がる人々、変わりゆく社会>

明治維新後(→p.70)、薩摩、長州、土佐、肥前の4藩閥や、官僚、華族など、ごく一部の人物が政権をにぎっていた。これに対し国民の政治参加を求める自由民権運動(→p.99)が広まった。その後、政党が結成され、藩閥、官僚と共に政権に加わるようになった。しかし1912(大正元)年、長州藩出身の桂太郎が総理大臣になると、藩閥や官僚体制に反発し、憲法に基づく政治を守ろうという護憲運動が起こった。立憲国民党の犬養毅、立憲政友会の尾崎行雄らの政党を中心に、各地で集会が開かれた。



歌舞伎座で演説する尾崎行雄。「東京朝日新聞」1912(大正元)年12月20日朝刊より。

政党は、同じ政治目標をもつ者で、政策の実現を目指した組織だよ。今は、自由民主党や民主党などがあるね。



広がる社会運動

政治家だけではなく、国民も自分たちの生活のために声をあげるようになり、さまざまな運動が各地で起きた。

●新聞社がおそわれた

新聞社は、人々の声や考えを広める機関として大きな役割を果たした。桂内閣につく新聞社と、それに反対する新聞社に分かれ、内閣に反対する人々が、政府系の新聞社「国民新聞」「二六新報」などを襲う事件も起きた。

画像は非公開です。

現在の銀座八丁目にあった国民新聞(左)と千代田区にあった二六新報(右)。

護憲運動をおし進めた2人



尾崎行雄(1858~1954)
神奈川県出身。新聞記者をへて政治家になった。東京市長、文部大臣、司法大臣を歴任。「憲政の神様」といわれる。



犬養毅(1855~1932)
藩閥打倒をとねえ、立憲国民党を結成。1931(昭和6)年に首相となったが、海軍の軍人に暗殺された(→p.113)。

●そのほかの社会運動

利益を1人じめする経営者に反発する労働者によるデモや、物価上昇にともない米の値段が上がったことに反発する米騒動が起こった。

また、女性の地位をよくしようとした平塚らいてう(らいちょう)を中心とする新婦人協会、身分による差別をなくそうとする水平社などの組織も結成された。



女性の地位向上のために作られた雑誌「青鏡」。

中央区の大正ロマン

大正時代には、新しい文化も広まった。これらを「大正モダン」、「大正ロマン」などという。今までの価値観などにとられない、おしゃれで現代的な文化は、中央区でもあちこちに見られた。

絵はがきになった大正時代の銀座通り。

新しい感じがするね!



●モダンな建築



山口銀行東京支店
現在の日本橋室町二丁目4番3号にあった。

ドイツ表現主義という芸術運動が日本に入ってきて、当時の建築もその影響を受けた。エレベーターつきの高い建物がつくられたのも、この時代からだ。



明治屋
現住所は、銀座二丁目6番7号。今も明治屋のビルだ。

●絵画

今までのえがきかたとちがいで、独特の世界観を感じる絵が多くなった。



《麗子微笑》

近代日本を代表する画家・岸田劉生は、銀座に生まれた。自分の娘麗子をモデルにした作品が多くある。

竹久夢二の《黒船屋》

この時代の人気画家・夢二は、日本橋呉服町(現・八重洲一丁目)に、絵画店「港屋絵草紙店」を出して絵を売っていた。

●買い物天国

百貨店やお店がたくさんでき、同時に人々を買う気持ちにさせるポスターがたくさんつくられた。



東京菓子株式会社(現・明治製菓)と三越呉服店(現・三越)のポスター。

●働く女性たち

会社や役所など都市に働きに行く人が増えた。「サラリーマン」という言葉もこの時代に生まれた。女性は電話交換手やバスの車掌、カフェーなどで働く人が多かった。

第一次世界大戦と日本のかかわり

画像は非公開です。



中国に戦車でせめこむ日本軍。

この時代のヨーロッパは、ドイツ、イタリア、オーストリアの三国同盟と、ロシア、フランスの露仏同盟に分かれていた。露仏同盟にイギリスが加わったため、おたがいの勢力争いが激しくなった。1914(大正3)年、オーストリアの皇太子夫妻が同国に不満をもつセルビア人に殺されたことがきっかけで、大戦争がはじまった。日本はイギリスと同盟国だったので、中国の青島(チンタオ)、山東省(シヤントン)にあるドイツ領を占領、次いで中国側に不利な条約を結ぶよう要求をするなど、力を強めようとした。さらにヨーロッパで生産が止まっている造船業、鉄鋼業などで業績をのばし好景気になった。